

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年11月10日
【四半期会計期間】	第37期第2四半期（自 2023年7月1日 至 2023年9月30日）
【会社名】	西日本旅客鉄道株式会社
【英訳名】	West Japan Railway Company
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 長谷川 一 明
【本店の所在の場所】	大阪市北区芝田二丁目4番24号
【電話番号】	06-6375-2229
【事務連絡者氏名】	ガバナンス推進本部課長 豊島 達也
【最寄りの連絡場所】	大阪市北区芝田二丁目4番24号
【電話番号】	06-6375-2229
【事務連絡者氏名】	ガバナンス推進本部課長 豊島 達也
【縦覧に供する場所】	西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部京滋支社 （京都市南区西九条北ノ内町5番地5） 同 近畿統括本部兵庫支社 （神戸市中央区加納町四丁目4番17号ニッセイ三宮ビル） 同 中国統括本部 （広島市東区上大須賀町15番20号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次		第36期 第2四半期 連結累計期間	第37期 第2四半期 連結累計期間	第36期
会計期間		自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2023年4月1日 至 2023年9月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
営業収益	(百万円)	616,705	769,902	1,395,531
経常利益	(百万円)	27,705	98,458	73,619
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	64,517	67,143	88,528
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	66,679	72,652	95,996
純資産額	(百万円)	1,127,260	1,198,422	1,144,309
総資産額	(百万円)	3,677,508	3,628,960	3,735,507
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	264.71	275.52	363.26
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	27.8	29.9	27.7
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	82,870	127,947	273,964
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	59,350	91,268	214,902
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	43,748	124,366	88,765
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	299,368	202,488	289,893

回次		第36期 第2四半期 連結会計期間	第37期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2022年7月1日 至 2022年9月30日	自 2023年7月1日 至 2023年9月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	27.27	138.81

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 1株当たり四半期(当期)純利益については、表示単位未満の端数を四捨五入して表示しております。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、事業の内容に重要な変更はありません。

なお、第1四半期連結会計期間より、以下のとおりセグメント区分を変更しております。

また、主要な関係会社については、当第2四半期連結会計期間より、不動産業セグメントに区分されるJR西日本不動産投資顧問(株)を連結子会社に含めております。

(1) モビリティ業

鉄道事業のほかに、旅客自動車運送事業及び船舶事業を展開しております。

鉄道事業のうち、当社は、北陸、近畿、中国及び九州北部の2府16県の広いエリアを営業範囲として、新幹線、在来線の特急を中心とする都市間輸送及び京阪神都市圏や広島、岡山等の地方中核都市を中心とする地域での都市圏輸送等を行っております。

そのほか、各種工事業、清掃整備事業等を展開しております。

事業の内容	主要な関係会社
鉄道事業	当社、嵯峨野観光鉄道(株)、関西高速鉄道(株)、大阪外環状鉄道(株)
旅客自動車運送事業	中国ジェイアールバス(株)、西日本ジェイアールバス(株)
船舶事業	JR西日本宮島フェリー(株)
貸自動車業	JR西日本レンタカー&リース(株)
車両等設備工事業	(株)JR西日本テクノス、(株)JR西日本新幹線テクノス
機械等設備工事業	(株)JR西日本テクシア
電気工事業	西日本電気テック(株)、西日本電気システム(株)、(株)てつでん
清掃整備事業	(株)JR西日本メンテック、(株)JR西日本中国メンテック、(株)JR西日本金沢メンテック
建設事業	大鉄工業(株)、(株)レールテック、(株)ジェイアール西日本ビルト、広成建設(株)
その他	(株)ジェイアール西日本リネン、(株)JR西日本カスタマーリレーションズ、(株)JR西日本交通サービス、(株)JR西日本中国交通サービス

(2) 流通業

百貨店業のほかに、主要駅における物販・飲食業等を展開しております。

事業の内容	主要な関係会社
百貨店業	(株)ジェイアール西日本伊勢丹
物販・飲食業	当社、(株)ジェイアール西日本デイリーサービスネット、(株)ジェイアール西日本フードサービスネット、(株)ジェイアールサービスネット広島、(株)ジェイアールサービスネット岡山、(株)ジェイアールサービスネット金沢、(株)ジェイアールサービスネット福岡、(株)ジェイアール西日本ファッショングッズ
各種物品等卸売業	ジェイアール西日本商事(株)

(3) 不動産業

保有不動産を活用した不動産販売・賃貸業のほかに、ショッピングセンター運營業、ホテル業を展開しております。

事業の内容	主要な関係会社
不動産販売・賃貸業	当社、JR西日本不動産開発(株)、京都駅ビル開発(株)、大阪ターミナルビル(株)、JR西日本プロパティーズ(株)、JR西日本不動産投資顧問(株)
ショッピングセンター運營業	JR西日本SC開発(株)、JR西日本京都SC開発(株)、富山ターミナルビル(株)、山陽SC開発(株)、金沢ターミナル開発(株)、JR西日本アーバン開発(株)、中国SC開発(株)、(株)和歌山ステーションビルディング、(株)新大阪ステーションストア、JR西日本大阪開発(株)、JR西日本山陰開発(株)
ホテル業	(株)ジェイアール西日本ホテル開発、(株)ホテルグランヴィア広島、(株)ホテルグランヴィア大阪、(株)ホテルグランヴィア岡山、和歌山ターミナルビル(株)、(株)奈良ホテル

(4) 旅行・地域ソリューション業

旅行・地域ソリューション業を展開しております。

事業の内容	主要な関係会社
旅行・地域ソリューション業	(株)日本旅行

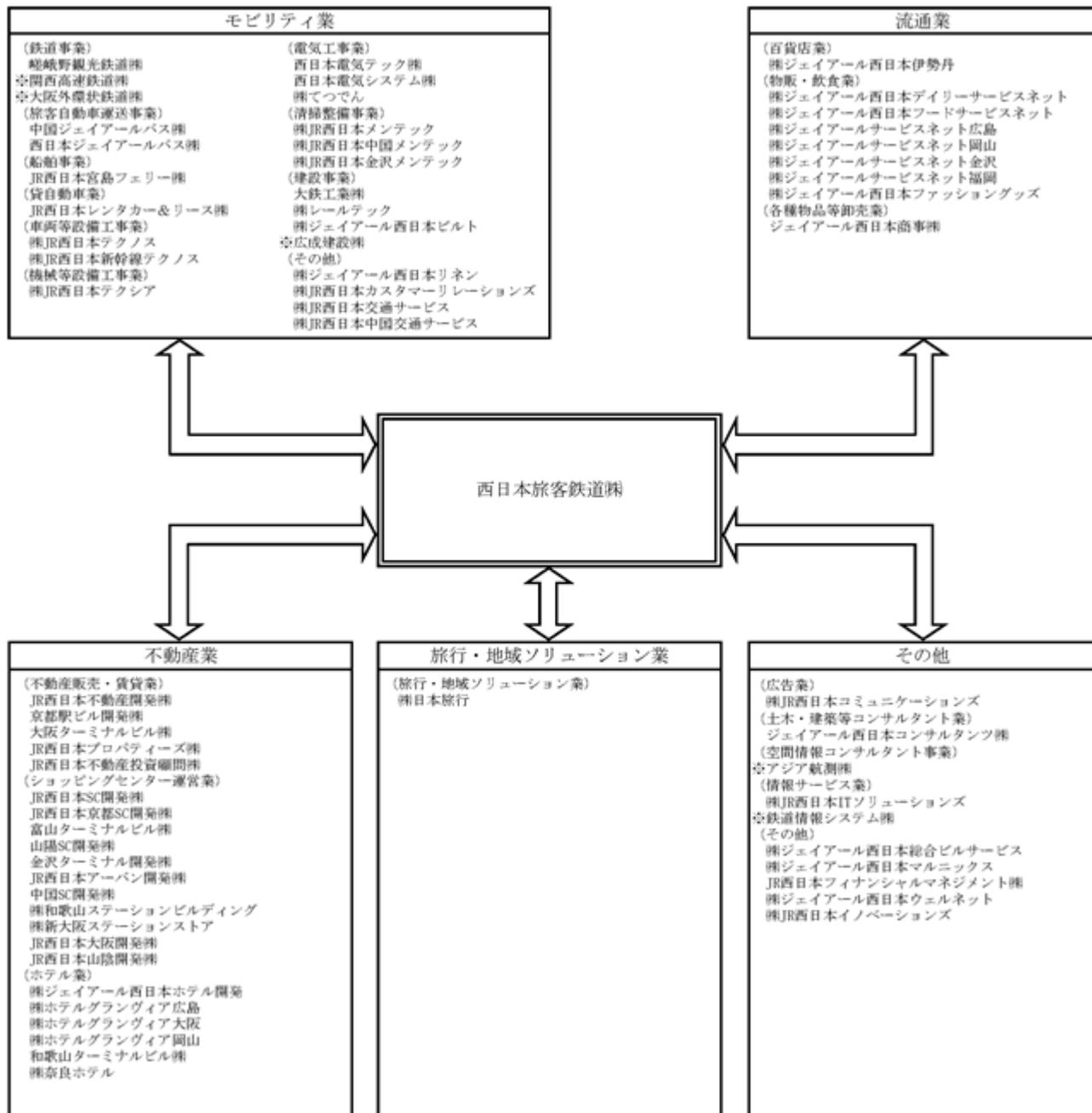
(5) その他

広告業等を展開しております。

事業の内容	主要な関係会社
広告業 土木・建築等コンサルタント業 空間情報コンサルタント事業 情報サービス業 その他	(株)JR西日本コミュニケーションズ ジェイアール西日本コンサルタンツ(株) アジア航測(株) (株)JR西日本ITソリューションズ、鉄道情報システム(株) (株)ジェイアール西日本総合ビルサービス、(株)ジェイアール西日本マルニックス、 JR西日本フィナンシャルマネジメント(株)、(株)ジェイアール西日本ウェルネット、 (株)JR西日本イノベーションズ

(注) 持分法適用関連会社であります。

以上に述べた事項の概要図は、次のとおりであります。



- (注) 1 持分法適用関連会社であります。
 2 各事業の区分ごとの会社名は主たる事業内容により記載しております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染症の影響の縮小に伴い、お客様のご利用や個人消費が回復するとともに、インバウンド需要も好調に推移しました。

その結果、営業収益は前年同期比24.8%増の7,699億円、営業利益は同214.0%増の1,062億円、経常利益は同255.4%増の984億円、法人税等を控除した親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年度の事業適応計画に基づく税制特例の反動があったものの同4.1%増の671億円となりました。

今後とも、「JR西日本グループ長期ビジョン2032・中期経営計画2025」に基づき、鉄道事業の安全性向上を最優先に、モビリティサービス分野の活性化と早期のコロナ前水準への回復、ライフデザイン分野の積極的な拡大を通じ、社会的価値と経済的価値を創出していきます。

これをセグメント別に示すと次のとおりとなります。

なお、第1四半期連結会計期間より、セグメント区分を変更しており、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報についても、変更後のセグメント区分に基づき作成したものを記載しております。

モビリティ業

当社グループは、「福知山線列車事故のような事故を二度と発生させない」という確固たる決意のもと、被害に遭われた方々への真摯な対応、安全性向上に取り組んでいます。

モビリティ業セグメントでは、鉄道需要の回復によりご利用が増加したことに加え、インバウンド需要が好調に推移したこと等から、営業収益は前年同期比23.7%増の4,656億円、営業利益は同477.5%増の705億円となりました。

流通業

流通業セグメントでは、コンビニエンスストアや土産店、流通業セグメントに区分される宿泊特化型ホテル「ヴィアイン」のご利用が好調であったこと等により、営業収益は前年同期比27.4%増の962億円、営業利益は同62億円増の67億円となりました。

不動産業

不動産業セグメントでは、不動産販売・賃貸業における住宅販売の増加に加え、ショッピングセンター運営業が個人消費の回復により堅調に推移し、ホテル業においても宿泊需要等が回復したこと等により、営業収益は前年同期比12.1%増の1,021億円、営業利益は同33.2%増の212億円となりました。

旅行・地域ソリューション業

旅行・地域ソリューション業セグメントでは、全国旅行支援による旅行需要の押し上げ効果に加え、インバウンド需要が好調に推移したこと等により、営業収益は前年同期比52.0%増の950億円、営業利益は同108.6%増の65億円となりました。

モビリティ業のうち、当社の鉄道事業の営業成績は以下のとおりであります。

ア．輸送実績

区分		単位	第37期第2四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)			
				前年同期比		
営業日数		日	183	-		
キロ程	新幹線	キロ	812.6	812.6		
	在来線	キロ	(28.0) 4,090.5	(28.0) 4,090.5		
	計	キロ	(28.0) 4,903.1	(28.0) 4,903.1		
輸送人員	定期	千人	546,571	101.7 %		
	定期外	千人	327,109	115.8		
	計	千人	873,680	106.6		
輸 送 人 キ ロ	新幹線	定期	千人キロ	461,740	104.8	
		定期外	千人キロ	9,250,641	137.0	
		計	千人キロ	9,712,382	135.0	
	在 来 線	近 畿 圏	定期	千人キロ	8,497,070	101.6
			定期外	千人キロ	4,913,799	125.7
			計	千人キロ	13,410,869	109.3
		そ の 他	定期	千人キロ	1,860,380	100.7
			定期外	千人キロ	1,872,779	125.7
			計	千人キロ	3,733,159	111.9
	計	定期	千人キロ	10,357,450	101.5	
		定期外	千人キロ	6,786,578	125.7	
		計	千人キロ	17,144,029	109.8	
	合 計	定期	千人キロ	10,819,191	101.6	
		定期外	千人キロ	16,037,219	132.0	
		計	千人キロ	26,856,411	117.8	

- (注) 1 キロ程欄の上段括弧書は、外数で第三種鉄道事業のキロ程であり、それ以外は第一種鉄道事業及び第二種鉄道事業のキロ程であります。また、前年同期比は、前年第2四半期末の数値を記載しております。
- 2 輸送人キロ欄の近畿圏は、京都府(南部)、大阪府(一部を除く)、兵庫県(南部)、滋賀県、奈良県(一部を除く)及び三重県(一部)について記載しております。

イ. 収入実績

区分		単位	第37期第2四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)				
				前年同期比			
旅客 運輸 収入	旅客 収入	新幹線	定期	百万円	5,888	104.6 %	
			定期外	百万円	208,490	137.9	
			計	百万円	214,379	136.7	
		在来線	近畿 圏	定期	百万円	53,344	103.6
				定期外	百万円	90,838	126.2
				計	百万円	144,182	116.8
		その他	定期	百万円	11,257	101.2	
			定期外	百万円	37,351	127.7	
			計	百万円	48,608	120.4	
	計	定期	百万円	64,601	103.2		
		定期外	百万円	128,189	126.6		
		計	百万円	192,791	117.7		
	合計	定期	百万円	70,490	103.3		
		定期外	百万円	336,680	133.4		
		計	百万円	407,170	127.0		
荷物収入			百万円	0	86.1		
合計			百万円	407,171	127.0		
鉄道線路使用料収入			百万円	2,394	110.0		
運輸雑収			百万円	32,673	105.5		
収入合計			百万円	442,239	125.0		

(注) 旅客収入欄の近畿圏は、京都府(南部)、大阪府(一部を除く)、兵庫県(南部)、滋賀県、奈良県(一部を除く)及び三重県(一部)について記載しております。

(2) 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産額は3兆6,289億円となり、前連結会計年度末と比較し1,065億円減少しました。これは主に、現金及び預金の減少によるものです。

負債総額は2兆4,305億円となり、前連結会計年度末と比較し1,606億円減少しました。これは主に、社債の減少によるものです。

純資産総額は1兆1,984億円となり、前連結会計年度末と比較し541億円増加しました。これは主に、利益剰余金の増加によるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ874億円減少し、2,024億円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において、税金等調整前四半期純利益が増加したことなどから、営業活動において得た資金は前年同期に比べ450億円多い1,279億円となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において、固定資産の取得による支出が増加したことなどから、投資活動において支出した資金は前年同期に比べ319億円多い1912億円となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において、社債の償還による支出が増加したことなどから、財務活動において支出した資金は前年同期に比べ806億円多い1,243億円となりました。

(4) 経営方針、事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当連結会社の経営方針、事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は23億円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間における研究開発活動の状況に、重要な変更はありません。

(6) 主要な設備

新設、休止、大規模改修、除却、売却等について、当第2四半期連結累計期間に著しい変動があったものは、次のとおりであります。

当第2四半期連結累計期間において完成した重要な設備の新設

工事件名	セグメントの名称	総工事費	完成年月
車両新造工事	モビリティ業	百万円 6,498	2023年7月

前連結会計年度末において計画中であった重要な設備の新設、除却等について、当第2四半期連結累計期間に著しい変更があったものは、次のとおりであります。

当第2四半期連結累計期間に新たに確定した重要な設備の新設の計画

工事件名	セグメントの名称	予算総額	工事着手年月	完成予定年月
車両新造工事	モビリティ業	百万円 27,246	2023年9月	2024年度

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、新たな経営上の重要な契約の締結、重要な変更及び解約等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数
普通株式	800,000,000 株
計	800,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数 (2023年9月30日)	提出日現在発行数 (2023年11月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	株 244,001,600	株 244,001,600	東京証券取引所プライム市場	単元株式数は100株であります。
計	244,001,600	244,001,600	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数	発行済株式 総数残高	資本金増減額	資本金残高	資本準備金 増減額	資本準備金 残高
2023年7月1日～ 2023年9月30日	株 -	株 244,001,600	百万円 -	百万円 226,136	百万円 -	百万円 181,136

(5) 【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	39,325,600	16.13
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	13,876,000	5.69
STATE STREET BANK WEST CLIENT- TREATY 505234 (常任代理人 株式会社みずほ銀行 決済営業部)	1776 HERITAGE DRIVE, NORTH QUINCY, MA 02171, U.S.A. (東京都港区港南二丁目15番1号)	4,656,640	1.91
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	4,480,000	1.84
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	4,410,000	1.81
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号	4,000,000	1.64
JR西日本社員持株会	大阪市北区芝田二丁目4番24号	3,371,200	1.38
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT (常任代理人 香港上海銀行東京支 店 カストディ業務部)	ONE CONGRESS STREET, SUITE 1, BOSTON, MASSACHUSETTS (東京都中央区日本橋三丁目11番1号)	3,170,510	1.30
JP MORGAN CHASE BANK 385781 (常任代理人 株式会社みずほ銀行 決済営業部)	25 BANK STREET, CANARY WHARF, LONDON, E14 5JP, UNITED KINGDOM (東京都港区港南二丁目15番1号)	3,132,265	1.28
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103 (常任代理人 株式会社みずほ銀行 決済営業部)	P.O. BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02 101 U.S.A (東京都港区港南二丁目15番1号)	2,210,794	0.91
計	-	82,633,009	33.89

(注) 1 ブラックロック・ジャパン株式会社から2018年12月6日付で関東財務局長に提出された大量保有報告書(変更報告書)において、同社及びその共同保有者7名が、2018年11月30日現在で11,478,532株(同日現在の発行済株式総数に対する所有株式数の割合5.96%)を保有している旨が記載されておりますが、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記「大株主の状況」には含めておりません。

2 三井住友信託銀行株式会社から2022年10月6日付で関東財務局長に提出された大量保有報告書(変更報告書)において、同社及びその共同保有者2名が、2022年9月30日現在で16,285,619株(同日現在の発行済株式総数に対する所有株式数の割合6.67%)を保有している旨が記載されておりますが、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記「大株主の状況」には含めておりません。

(6) 【議決権の状況】
【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 162,600	-	-
	(相互保有株式) 普通株式 410,000	-	
完全議決権株式(その他)	普通株式 243,315,400	2,433,154	-
単元未満株式	普通株式 113,600	-	-
発行済株式総数	244,001,600	-	-
総株主の議決権	-	2,433,154	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式9,400株(議決権94個)が含まれております。

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 西日本旅客鉄道株式会社	大阪市北区芝田二丁目4番24号	162,600	-	162,600	0.07
(相互保有株式) アジア航測株式会社	東京都新宿区西新宿六丁目14番 1号 新宿グリーンタワービル	10,000	-	10,000	0.00
広成建設株式会社	広島市東区上大須賀町1番1号	400,000	-	400,000	0.16
計	-	572,600	-	572,600	0.23

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当第2四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2023年7月1日から2023年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人の四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	290,138	202,735
受取手形及び売掛金	43,886	40,591
未収運賃	41,472	45,574
未収金	115,535	67,545
有価証券	36	1
棚卸資産	1 153,234	1 179,609
その他	73,844	77,024
貸倒引当金	1,616	666
流動資産合計	716,532	612,417
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,230,595	1,223,990
機械装置及び運搬具(純額)	399,001	388,661
土地	782,965	794,483
建設仮勘定	117,193	126,560
その他(純額)	51,447	51,030
有形固定資産合計	2,581,205	2,584,726
無形固定資産	49,254	45,941
投資その他の資産		
投資有価証券	101,980	119,102
退職給付に係る資産	3,173	3,184
繰延税金資産	232,895	211,310
その他	53,558	55,553
貸倒引当金	3,761	3,707
投資その他の資産合計	387,846	385,442
固定資産合計	3,018,306	3,016,111
繰延資産		
株式交付費	668	432
繰延資産合計	668	432
資産合計	3,735,507	3,628,960

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	66,020	45,266
短期借入金	17,483	18,008
1年内償還予定の社債	100,000	60,000
1年内返済予定の長期借入金	39,553	54,544
鉄道施設購入未払金	1,245	1,285
未払金	122,108	80,572
未払消費税等	23,451	15,537
未払法人税等	13,600	10,913
前受運賃	37,244	41,857
前受金	44,052	61,545
賞与引当金	29,540	28,912
災害損失引当金	396	346
ポイント引当金	706	318
その他	163,060	171,431
流動負債合計	658,464	590,539
固定負債		
社債	859,992	809,993
長期借入金	557,482	527,467
鉄道施設購入長期未払金	97,436	96,783
繰延税金負債	1,474	1,469
新幹線鉄道大規模改修引当金	29,166	31,250
環境安全対策引当金	3,414	3,179
線区整理損失引当金	15,794	15,439
退職給付に係る負債	223,318	205,847
その他	144,653	148,567
固定負債合計	1,932,733	1,839,998
負債合計	2,591,198	2,430,537
純資産の部		
株主資本		
資本金	226,136	226,136
資本剰余金	183,904	183,934
利益剰余金	626,108	674,869
自己株式	1,378	1,261
株主資本合計	1,034,772	1,083,679
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,061	4,172
繰延ヘッジ損益	9	44
退職給付に係る調整累計額	1,347	1,833
その他の包括利益累計額合計	295	2,383
非支配株主持分	109,832	112,360
純資産合計	1,144,309	1,198,422
負債純資産合計	3,735,507	3,628,960

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業収益	616,705	769,902
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	499,203	565,071
販売費及び一般管理費	2 83,648	2 98,538
営業費合計	1 582,851	1 663,610
営業利益	33,854	106,292
営業外収益		
受取利息	20	28
受取配当金	619	442
受託工事事務費戻入	89	66
持分法による投資利益	1,102	1,038
その他	3,563	1,552
営業外収益合計	5,396	3,129
営業外費用		
支払利息	10,468	10,178
その他	1,076	785
営業外費用合計	11,545	10,963
経常利益	27,705	98,458
特別利益		
工事負担金等受入額	4,321	4,015
収用補償金	-	142
その他	6,442	1,334
特別利益合計	10,764	5,493
特別損失		
工事負担金等圧縮額	4,214	3,852
収用等圧縮損	-	142
その他	1,346	1,799
特別損失合計	5,560	5,793
税金等調整前四半期純利益	32,910	98,158
法人税、住民税及び事業税	5,321	8,110
法人税等調整額	38,309	20,336
法人税等合計	32,988	28,446
四半期純利益	65,898	69,712
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,381	2,568
親会社株主に帰属する四半期純利益	64,517	67,143

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	65,898	69,712
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,278	3,333
繰延ヘッジ損益	4	68
退職給付に係る調整額	425	462
持分法適用会社に対する持分相当額	77	0
その他の包括利益合計	781	2,940
四半期包括利益	66,679	72,652
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	65,337	69,821
非支配株主に係る四半期包括利益	1,342	2,831

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	32,910	98,158
減価償却費	77,906	79,818
工事負担金等圧縮額	4,214	3,852
固定資産除却損	1,299	1,396
固定資産売却損益(は益)	6,013	92
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	20,513	18,080
貸倒引当金の増減額(は減少)	109	1,003
賞与引当金の増減額(は減少)	1,038	633
新幹線鉄道大規模改修引当金の増減額(は減少)	2,083	2,083
その他の引当金の増減額(は減少)	1,951	1,141
受取利息及び受取配当金	640	471
支払利息	10,468	10,178
持分法による投資損益(は益)	1,102	1,038
工事負担金等受入額	4,321	4,015
売上債権の増減額(は増加)	40,066	48,552
棚卸資産の増減額(は増加)	24,033	25,466
仕入債務の増減額(は減少)	31,430	33,337
未払又は未収消費税等の増減額	5,945	7,913
その他	15,469	2,300
小計	99,424	148,543
利息及び配当金の受取額	635	461
利息の支払額	10,392	10,132
法人税等の支払額	6,796	10,924
営業活動によるキャッシュ・フロー	82,870	127,947
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	82,073	98,998
固定資産の売却による収入	6,013	287
工事負担金等受入による収入	20,925	18,891
投資有価証券の取得による支出	2,083	12,519
投資有価証券の売却による収入	-	1,319
貸付金の純増減額(は増加)	821	1,190
その他	1,310	1,439
投資活動によるキャッシュ・フロー	59,350	91,268

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	1,553	2,316
長期借入金の返済による支出	30,026	15,023
社債の償還による支出	-	90,000
鉄道施設購入長期未払金の支払による支出	574	612
自己株式の取得による支出	962	0
配当金の支払額	12,196	18,265
非支配株主への配当金の支払額	235	300
その他	1,307	2,480
財務活動によるキャッシュ・フロー	43,748	124,366
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	20,227	87,686
現金及び現金同等物の期首残高	319,596	289,893
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	282
現金及び現金同等物の四半期末残高	299,368	202,488

【注記事項】

(連結の範囲の重要な変更)

当第2四半期連結会計期間より、JR西日本不動産投資顧問(株)は重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

この結果、連結子会社数は61社であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 棚卸資産の内訳

棚卸資産の内訳は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
商品及び製品	32,472	38,625
仕掛品	98,497	113,227
原材料及び貯蔵品	22,264	27,757
計	153,234	179,609

2 保証債務

連結会社以外の会社等に対する保証債務は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

被保証者	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (2023年9月30日)	被保証債務の内容
関西高速鉄道(株)	52,405	52,405	金融機関等からの借入金 に対する債務保証
大阪外環状鉄道(株)	12,931	12,316	金融機関等からの借入金 に対する保証予約
三井物産(株)	860	-	ブラジル都市旅客鉄道 事業に対する保証
非連結子会社	463	557	JR券委託販売等に対する 保証
提携住宅ローン利用顧客	6,274	1,308	提携住宅ローンに対する 保証
その他	3	2	
計	72,938	66,590	

3 今後、福知山線列車事故に伴う補償などの支出が見込まれますが、これらについては、現時点では金額等を合理的に見積もることは困難であります。

(四半期連結損益計算書関係)

1 主な引当金の繰入額及び退職給付費用は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
賞与引当金繰入額	22,108	28,462
退職給付費用	7,252	7,072

2 販売費及び一般管理費の内訳は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
人件費	42,346	47,625
経費	31,996	41,455
諸税	3,688	3,934
減価償却費	5,616	5,523
計	83,648	98,538

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
現金及び預金勘定	299,614	202,735
預入期間が3ヶ月を 超える定期預金	245	246
現金及び現金同等物	299,368	202,488

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月23日 定時株主総会	普通株式	百万円 12,200	円 50	2022年3月31日	2022年6月24日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年11月1日 取締役会	普通株式	百万円 12,190	円 50	2022年9月30日	2022年12月2日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月23日 定時株主総会	普通株式	百万円 18,286	円 75	2023年3月31日	2023年6月26日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年10月31日 取締役会	普通株式	百万円 14,020	円 57.5	2023年9月30日	2023年12月4日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	モビリティ業	流通業	不動産業	旅行・地域ソリューション業	その他(注1)	合計	調整額(注2)	四半期連結損益計算書計上額(注3)
売上高								
外部顧客への売上高	376,544	75,554	91,094	62,518	10,994	616,705	-	616,705
セグメント間の内部売上高又は振替高	16,610	2,544	7,597	738	21,885	49,376	49,376	-
計	393,154	78,098	98,691	63,257	32,879	666,082	49,376	616,705
セグメント利益	12,214	550	15,960	3,150	1,547	33,423	431	33,854

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告業等を含んでおります。
2 セグメント利益の調整額431百万円は、セグメント間取引消去です。
3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

(1) 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	モビリティ業	流通業	不動産業	旅行・地域ソリューション業	その他(注1)	合計	調整額(注2)	四半期連結損益計算書計上額(注3)
売上高								
外部顧客への売上高	465,644	96,252	102,105	95,056	10,844	769,902	-	769,902
セグメント間の内部売上高又は振替高	21,594	2,227	8,307	1,595	23,979	57,704	57,704	-
計	487,238	98,480	110,412	96,652	34,823	827,607	57,704	769,902
セグメント利益	70,538	6,780	21,255	6,571	537	105,682	609	106,292

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告業等を含んでおります。
2 セグメント利益の調整額609百万円は、セグメント間取引消去です。
3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(2) 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、事業ポートフォリオ再構築を着実に推進するため、第1四半期連結会計期間より、鉄道カンパニー発足と合わせ、セグメント区分を変更しております。具体的には、従来「運輸業」、「流通業」、「不動産業」、「その他」としていたセグメント区分を、「モビリティ業」、「流通業」、「不動産業」、「旅行・地域ソリューション業」、「その他」に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後のセグメント区分に基づき作成したものを記載しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年9月30日)

(単位:百万円)

	モビリティ業			流通業	不動産業	旅行・地域 ソリューション業	その他 (注1)	合計
	旅客運送		その他					
	定期	定期外						
顧客との契約から 生じる収益	68,432	256,290	48,977	71,968	43,886	62,518	10,954	563,029
その他の源泉から 生じる収益(注2)	-	-	2,843	3,585	47,207	-	40	53,676
外部顧客への売上高	68,432	256,290	51,821	75,554	91,094	62,518	10,994	616,705

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告業等を含んでおります。

2 「その他の源泉から生じる収益」は収益認識会計基準の適用対象外の収益であり、不動産賃貸収入及びリース収入等を含んでおります。

当第2四半期連結累計期間(自2023年4月1日至2023年9月30日)

(単位:百万円)

	モビリティ業			流通業	不動産業	旅行・地域 ソリューション業	その他 (注1)	合計
	旅客運送		その他					
	定期	定期外						
顧客との契約から 生じる収益	70,675	337,620	54,171	92,155	52,501	95,056	10,803	712,985
その他の源泉から 生じる収益(注2)	-	-	3,176	4,096	49,603	-	40	56,916
外部顧客への売上高	70,675	337,620	57,347	96,252	102,105	95,056	10,844	769,902

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告業等を含んでおります。

2 「その他の源泉から生じる収益」は収益認識会計基準の適用対象外の収益であり、不動産賃貸収入及びリース収入等を含んでおります。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 9 月 30 日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2023年 4 月 1 日 至 2023年 9 月 30 日)
1 株当たり四半期純利益	264円71銭	275円52銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	64,517	67,143
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益 (百万円)	64,517	67,143
普通株式の期中平均株式数 (千株)	243,730	243,695

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

(株式分割、株式分割に伴う定款の一部変更)

当社は、2023年10月31日開催の取締役会において、株式分割、株式分割に伴う定款の一部変更を行うことを決議いたしました。

(1) 株式分割の目的

株式分割を行い、当社株式の投資単位当たりの金額を引き下げることにより、より投資しやすい環境を整え、投資家層の拡大を図ることを目的とするものです。

(2) 株式分割の概要

分割の方法

2024年 3 月 31 日 (日) 最終の株主名簿に記録された株主の所有普通株式 1 株につき 2 株の割合をもって分割いたします。

分割により増加する株式数

株式分割前の発行済株式総数	244,001,600株
今回の分割により増加する株式数	244,001,600株
株式分割後の発行済株式総数	488,003,200株
株式分割後の発行可能株式総数	1,600,000,000株

分割の日程

基準日公告日	2024年 3 月 15 日 (金)
基準日	2024年 3 月 31 日 (日)
効力発生日	2024年 4 月 1 日 (月)

1 株当たり情報に及ぼす影響

当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定した場合の 1 株当たり情報は、以下のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 9 月 30 日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2023年 4 月 1 日 至 2023年 9 月 30 日)
1 株当たり四半期純利益	132円35銭	137円76銭
潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益	-	-

(3) 株式分割に伴う定款の一部変更

定款変更の理由

今回の株式分割に伴い、会社法第 184 条第 2 項の規定に基づき、2024年 4 月 1 日をもって、当社定款第 6 条の発行可能株式総数を変更いたします。

定款変更の内容

変更の内容は以下のとおりであります。(下線は変更部分を示します。)

現行定款	変更後
(発行可能株式総数) 第 6 条 本会社の発行可能株式総数は、 <u>8</u> 億株とする。	(発行可能株式総数) 第 6 条 本会社の発行可能株式総数は、 <u>16</u> 億株とする。

定款変更の日程

効力発生日 2024年 4 月 1 日

2 【その他】

第37期(2023年 4 月 1 日から2024年 3 月31日まで)中間配当については、2023年10月31日開催の取締役会において、2023年 9 月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	14,020,739,107.5円
1株当たりの金額	57.5円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2023年12月 4 日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月9日

西日本旅客鉄道株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松本 要

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 柴田 芳宏

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 仲 昌彦

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている西日本旅客鉄道株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、西日本旅客鉄道株式会社及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。